病院だより No.63

『背骨の治療について②』

先月に続いて、脊椎領域の治療について紹介します。前回は、患者さんの痛みやしびれなどの自覚症状だけでは論じられず、それには背骨の中に脊髄という大切に守らねばならない太い神経があることと深く関わりがあることをお話しました。では、背骨が年とともに変形が進み、痛みが増し足腰が弱ってくることにどう対処していけばいいのでしょうか。

天塩町には体を酷使して背骨も関節も傷んでいる方がとても多いと思います。神経の障害が進み、歩行が難しくなり自宅で這っている方、自力排尿ができず管を留置することになられた方、数多くお見かけしてきました。町としても整形外科医がいるからには、背骨の問題を何とか解決してもらいたいと素直に思うところでしょう。ただ現実的な話になると、薬だけで解決するには限度があり、だからこそ我々は整形「外科医」なのです。

外科医の仕事において究極的に大切なことは、患者さんとの信頼関係だと言っても過言ではありません。その言葉の意味は、とりわけ脊椎外科の領域では、「この先生なら痛みを取ってくれる」と言う信頼とは少し違います。前回お話したように、患者さんと医師との間で手術の狙いが完全に一致しないことが生じやすい領域であるが故に、患者さんが「より重篤な神経障害を引き起こさないことが大切なんだ」という点を理解し、互いに信頼関係が構築できているかを、治療する側も肌で感じ取っているところがあります。片想いではなく両想いの信頼関係です。

年齢とともに背骨が傷んでいる方は五万と居ます。その全例に手術をするなど到底できない訳です。将来的にも体が不自由にならないよう、まずは神経の障害を未然に防ぐことを最優先に、つらい症状についても最大限軽減が図れるよう専門医はプランニングをしていきます。手術で取り切れない症状は、お薬も併用しながら一緒について来て下さる方、そうした双方向の信頼関係がより良い脊椎外科手術の結果を生むのだと思います。

私は研修の一年目、ご年配の方の背骨の障害にもとても熱心なベテラン専門医のもとで脊椎外科を学びました。医療機関により加齢に伴う脊椎障害への熱意の違いはどうしてもありますが、道内にも熱心な先生がおられます。整形外科が扱う領域では、脊椎はチャレンジ性の高い領域です。リウマチやがんなどの病気が骨格に波及した場合でも、最終的に難しい対処を迫られるのは脊椎です。人間の屋台骨であり、そこに脊髄が走っている特殊性があるからであり、その困難な領域に敢えて身を捧げている脊椎脊髄外科医に私は頭が下がる思いがします。

痛い、しびれる、そうしたつらい症状についても彼らはもちろん最善の方法を提案してくれます。今は手術すべきタイミングではない、こういう状況に陥ればすぐにも対処しましょう、など提案をしてくれるはずです。専門医の診察を何度か受けながら、ご自身の思いも伝えながら、双方向の信頼関係を構築していくことが、背骨の治療においてはとりわけ重要です。受けたくない気持ちが働きやすい領域ですが、少しでも背骨の治療に取り組まれる方が増えてくることを期待してやみません。

（文責　整形外科　橋本）